



背景・目的

- 本年度我が国で開催されたG7富山環境大臣会合において、資源効率性に関する共通ビジョン及びG7各国による様々な3R行動を盛り込んだ「**富山物質循環フレームワーク**」を策定し、G7伊勢志摩サミット首脳宣言において支持されている。
- また、昨年度国連で決定された**SDGs(持続可能な開発目標)**では、そのGoalの1つとして、資源の持続可能な管理及び効率的な使用の達成を謳っている。
- さらに、**UNEPの国際資源パネル**(IRP=気候変動におけるIPCCに相当)による資源生産性向上に向けた政策決定者向けサマリーや**OECD**による政策ガイドダンスの報告書がとりまとめられている。
- このように、資源生産性・3Rへの取組が世界的な潮流となっている中で、中長期的な観点からの次期循環型社会形成推進基本計画の検討や新たな施策、国際的な取組の強化を図っていく。

事業概要

(1) 富山物質循環フレームワーク等を踏まえた次期循環基本計画策定事業

- ①2050年・2030年の循環型社会検討とモデルによるシナリオ分析
- ②循環型社会を実現するための具体的な目標・指標の検討
- ③目標・指標を達成するための個別政策の検討
- ④循環型社会の形成による経済・社会便益分析

(2) 資源効率性・3Rの抜本強化に向けた新政策ロードマップ策定

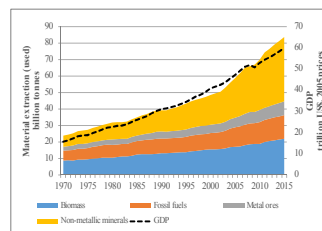
- ①ライフサイクル全体を踏まえた環境負荷評価・認証等
- ②ストック資源の質・量の向上に向けたロードマップ等
- ③バイオマスプラスチック等再生可能資源利用促進ロードマップ等
- ④IoT(Internet of Things:モノのインターネット)やAI(artificial intelligence:人工知能)など、技術革新を踏まえた資源効率性向上のポテンシャル分析

(3) 廃棄物処理等に関わる中長期行動指針の策定

- ①一般廃棄物処理の現状や取り巻く環境の整理・分析
- ②一般廃棄物処理に関する中長期行動指針(ビジョン)の策定検討

(4) 富山物質循環フレームワークフォローアップ事業

- ①G7アライアンスの開催等を通じた富山物質循環フレームワーク全体のフォローアップ
- ②各国の政策を更に後押しするための国際的な共通理解の醸成
- ③非G7国へのアウトリーチ



【世界の物質採掘量とGDPの推移】

世界の物質採掘量(色塗部分)は増加し続けており、2000年以降、GDP(点線)を上回るペースで増加しているように見える。世界の物質採掘量は2050年に現在の2倍以上の1,830億トンに達すると予測される。

出典：UNEP (2016)、UNSD (2015)



【デカップリング(資源利用と経済成長の分断)】

持続可能な開発と、パリ協定などの気候変動対策実現のためには、経済成長と資源消費・環境負荷のデカップリングが不可欠。

出典：UNEP (2011)

【SDGsのうち天然資源の持続的利用に直接依存する目標】

IRPによれば、SDGsの17のGoalのうち、12のGoalの達成が資源効率性向上の取組に依存。

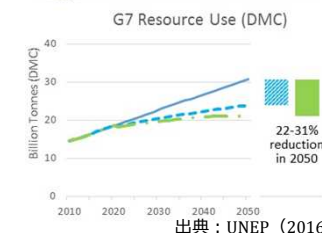
出典：UNEP (2016)



【フレームワークにおける共通ビジョン】

地球の環境容量内に収まるように天然資源の消費を抑制し、再生材や再生可能資源の利用を進めることにより、ライフサイクル全体にわたりストック資源を含む資源が効率的かつ持続的に使われる社会を実現。

資料：橋本征二ほか「循環型社会像の比較分析」より環境省作成



【G7諸国におけるシナリオ予測】

資源効率政策の導入により、気候変動対策と兼ね合わせることで2050年におけるG7の資源採掘量を最大31%削減できる。

既存トレード 資源効率政策 資源効率政策+気候変動対策(2°C目標)